

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創設 117 年目を迎える府立富田林高等学校に大阪府立初の（併設型）中高一貫校として併設された本校は、6 年一貫した教育を通して生徒・保護者・地域のニーズに応じた生徒の進路実現を図り、地域・社会に有為な人材（グローバル・リーダー）を育成することをミッションとし、未来に向けた挑戦を始める。

＜中高一貫校としてめざす学校像＞

「南河内の誇りを胸に抱き、世界とつながり、活躍できる人材」の育成校をめざす。

＜中高一貫教育を通して育みたい力＞

- (1) グローバルな視野とコミュニケーション力
- (2) 論理的思考力と課題発見・解決能力
- (3) 社会貢献意識と地域愛

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 各教科・科目において、中高一貫して学習指導要領の目標を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組む。

ア 45分×7限授業（高校全学年33単位）により、確かな学力の育成に取り組む。

イ 「アクティブ・ラーニング研究チーム」を核として、アクティブ・ラーニングの視点による授業改善に全教員で組織的に取り組む。

ウ 6年一貫のCan-doリストに基づく英語の運用能力を推進する。

エ 家庭学習ノートの一層の活用を図るなど、家庭での学習習慣の確立のための工夫をする。

※（生徒向け）学校教育自己診断における授業満足度（平成28年度63%）70%をめざし、3年後に80%をめざす。

2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み

(1) SSH となり、中高一貫して「探究」と「貢献」をキーワードに教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成する教育を推進するとともに、進学実績の向上を図る。

ア SSH となり「総合的な学習の時間」では、「地域と連携した探究貢献活動」を実施するとともに海外との交流を拡充することで、国際社会で活躍できる力、社会への貢献意識、及び自己実現意識を育成する。

イ・中高一貫した進路指導実現のためのシステムを構築する。

・現役での国公立大学進学者の合格者数（平成27年度現役合格者数61名。3年生5.9人に1人が合格）を3年後には5.0人に1人の合格をめざす。あわせて難関大学（京都、大阪、神戸等）への受験者増をめざす。

※（生徒向け）学校教育自己診断における進路指導の満足度（平成28年度80%）80%以上を維持し、3年後に90%以上をめざす。また、（保護者向け）学校教育自己診断における進路指導の満足度（平成28年度77%）80%以上をめざし、3年後に90%以上をめざす。

3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み

(1) 充実した学校生活こそが、「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事・部活動等の一層の充実を図る。

ア ＜中高一貫教育を通して育みたい力＞の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励する

イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。

ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。

※・（生徒向け）学校教育自己診断の学校行事満足度（平成28年度92%）90%以上をめざし、その後も90%以上を維持する。

(2) 異文化交流による国際教育を中高一貫して推進する。

ア 国際交流（台湾、オーストラリア、ドイツ、タイ等）の充実

イ ・海外での交流校の発掘

・台湾やオーストラリアの姉妹校との交流の継続

・グローバル人材の育成に向けた海外研修の実施

※（生徒向け）学校教育自己診断結果で国際交流満足度（平成28年度92%）90%以上をめざし、その後も90%以上を維持する。

4 中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携

(1) 中高一貫校として再編した分掌組織を機能させ、6年一貫した教育活動の充実を図る。

ア 中高一貫の観点でそれぞれ校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、その中で人材育成を図る

イ 全国的な教育課程研究会への参加や、全国の教育先進校の視察を行い、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める

ウ 中高一貫校として相応しい学校Webページに一新するとともに、校長ブログ等による情報の発信を強化する

※（保護者向け）学校教育自己診断における情報発信の満足度（平成28年度88%）90%をめざし、その後は90%以上を維持する。

(2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。

ア コミュニティスクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりの推進

イ 安全・安心な学校づくり

ウ 地域貢献を推進

※（生徒向け）学校教育自己診断における学校満足度（平成28年度88%）90%をめざし、その後も90%以上を維持する。また（保護者向け）学校教育自己診断における学校満足度（平成28年度95%）90%以上をめざし、その後も90%以上を維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
I 生徒・保護者 () 内は昨年度 教員分も同様 1 学校満足度 「ぜんぶ全力」を合言葉に、学習、部活動、学校行事等に全力で取り組む姿勢を育むことで、富田林高校で「学ぶ喜び」を味わわせることが	第 1 回 7 月 4 日 (1) 今年度の学校経営計画について ・富田林高校の現状がよく分かった。 ・探求や地域貢献については昨年度から着実に進められていると思う。

府立富田林高等学校

できるよう取り組んだ。

- (1) 生徒
「富田林高校へ進学してよかった」・・・・・・・・・・90.6% (87.8)
- (2) 保護者
「富田林高校で学ばせることができてよかった」 95.7% (94.8)
※保護者の満足度はこの8年間で最高値である。

2 確かな学力の育成

今求められている「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点での授業改善）」を実現する授業づくりに向けて、1年間、校内全体で組織的に授業研究に取り組んできた。

- (1) 生徒
「授業中は集中して先生の話聞いている」・・・・・・・・87.0% (83.1)
「家庭学習を毎日90分以上している」・・・・・・・・77.6% (69.9)
「教員によるICT機器の使用は、授業の内容を理解する上で効果的である」・・・・・・・・86.2% (75.6)
「内容を深く考えさせる授業が多い」・・・・・・・・68.5%
※上からの2項目はこの8年間で最高値。また、ICT機器の項目は、この項目が付け加えられた4年間で最高値。また最後の項目は「主体的・対話的で深い学び」について今年初の項目
- (2) 保護者
「学校の学習活動への取組に満足している」・・・・・・84.6% (81.4)
※保護者の満足度はこの8年間で最高値である。

3 進路実現

タブレット端末を使った進路情報の「見える化」の徹底を図ることをはじめ、選択科目においても個々の進路実現に向けた科目編成をとるなど、一人一人の確実な進路実現に向けた取組みを展開している。

- (1) 生徒
「進路希望達成に適切な選択科目が多い」・・・・・・・・80.0% (78.4)
「学校だけで、進路達成に必要な学力が身につく」・・56.4% (57.2)
「理解度に応じて補講や講習が行われている」・・・・75.6% (83.6)
「学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」・・82.3% (80.2)
- (2) 保護者
「学校の進路指導への取組に満足している」・・・・・・78.5% (76.4)
※保護者の満足度はこの8年間で最高値。学力の向上とともに、一人一人の進路実現に向け、よりきめ細かな進路指導を行う。

4 豊かな感性

本校の学校教育目標である「グローバルな視野とコミュニケーション力」「論理的思考力と課題発見解決能力」の育成及び「社会貢献意識と地域愛」の醸成に関わる項目である。今年度は国際交流を通してグローバルな視野とコミュニケーション力が身に付いたかを具体的に問うた。

- (1) 生徒
「学校の人権教育は適切である」・・・・・・・・・・86.1% (90.4)
「学校は海外修学旅行、海外研修、国際交流等を通じてグローバルな視野やコミュニケーション力の育成に努めている」・・86.4% (93.3)
「学校行事に参加するのは楽しい」・・・・・・・・・・92.6% (92.2)
- (2) 保護者
「学校の人権教育への取組に満足している」・・・・・・80.7% (83.2)
「学校は海外修学旅行、海外研修、国際交流等を通じてグローバルな視野やコミュニケーション力の育成に努めている」・・92.0%
「学校の学校行事への取組に満足している」・・・・・・95.1% (91.5)
※学校行事への生徒の参加満足度や学校行事への取組みの保護者満足度（この8年間で最高値）は大変高い。また今後もグローバルな視野とコミュニケーション力を養うグローバル教育に一層力を入れる。

5 保護者連携

ホームページを中高一貫校用に更新したり、日々ブログやメルマガなどで情報を積極的に提供するなど、保護者との緊密な連携を図ろうとしている。

- (1) 生徒
「学校はHP・ブログやメールマガジンなどで情報をよく流している」・・・・・・・・73.9% (69.9)
「学校からの連絡を保護者に伝えている」・・・・・・79.5% (76.8)

- ・地域とどのようにつながるか、実際に社会で生徒がどのように学ぶのが課題。
 - ・SSHは理科のイメージが強いが、総合学習の取組を中心として認定されたのは異色だ。
 - ・サイエンスに興味を抱く生徒は多いと思う。SSHの成果を期待する。
 - ・主体的・対話的な思考とループリックに矛盾はないのか？
目標を設定すると、それに対して向かわせるという姿勢とずれが生じないか？
 - ・深い学びの追求と進路指導の合致という進路一辺倒ではない取組が感じられた。
 - ・国（学習指導要領）と富田林高校の目指す方向は合致している。
- (2) 中高一貫校開校（H29年4月）後の状況について
- ・まずは教師間の共通理解が重要。
 - ・高校生が中学生の学習を支援すると自身の学習意欲も高まり、相互により影響がある。
 - ・中高合同の学校行事は、保護者からは良い評価を聞いている。

第2回12月5日

- (1) 学校経営計画 取組の進捗について
- ・非常にハイレベルで良い取組である。
 - ・学校名や点数で学校を選ぶ時代は終わり、これからは何を学べるのかが問われる。
 - ・教え方改革が国から求められているが、教員側の学び方や人生との関わりが大切。
 - ・取組自体に目が行き過ぎて、生徒の反応への目配りはできているか？
 - ・中心となっている教員への負担が大きすぎるように感じる。
- (2) 中高一貫校開校後の状況について
- ・高校入試がない分、6年間のつながりを活用して、他の中学とは違う特色を出さなくてはならない。
 - ・ゆとりの時間を子どもの成長に用い、人の痛みがわかるリーダーを育ててほしい。
 - ・今の取組を持続可能なものにしてほしい。

第3回2月20日

- (1) 学校教育自己診断結果
- 【生徒に関して】
- ・全学年の平均が上がってきた。中でも1年生の肯定的回答の割合が高い。
 - ・学習面から
「ICT機器使用の授業」の満足度について、86.2%が肯定的に回答、教員の利用率も9割以上。
「授業中は集中して先生の話聞いている」は4%上昇し、特に1年生は92.3%。
「予習・復習はしている」は初めて60%を超えた。
 - ・本校の学校教育目標から
①グローバルな視野とコミュニケーション力
「学校はグローバルな視野とコミュニケーション力の育成に努めている」は少し下がった(86.4%)。
※国際交流を通してどんな力を身についたかを省察させる必要がある。
 - ②論理的思考力と課題発見解決能力
「内容を深く考えさせる授業が多い」は68.5%であった。
「探究活動で深く考え、情報を収集し、発表する力が付いた」は55.9%。
※この点から、「思考力・判断力・表現力」を向上させる指導を充実させていかなければならない。
 - ③社会貢献意識と地域愛
「様々な活動を通じての社会貢献や社会で活躍する力が身に付いた」は88.4%。
※8年間で最高値であった。

【保護者に関して】

- ・「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている」は昨年度比+10%。
- ・「学校は、いじめについて真剣に対応してくれる」は79.5%。しかし、約20%の保護者はそう思っていないことが課題。
- ・「学校は時代が求める新しい教育活動に柔軟に対応している」は85.9%。
※今年度初めて入れた項目であり、来年度以降、この数値の変動に注目したい。
- ・「学校の学校行事への取組」の満足度は95.1%。
※8年間で最高値であった。
- ・「富田林高校で学ばせることが出来てよかった」は95.7%。
※8年間で最高値であった。喜ばしいことであり、来年度以降もこの数値を上げられるよう努める。

【教員に関して】

- ・学校運営から
「学校運営に教職員の意見が反映されている」は50%を割った(43.6%)。
「本年度の計画に、昨年度の評価が活かされている」は昨年度比-16.3%。
※中高一貫校への改変、SSHの認定、コミュニティスクールの指定など大変革が一時に

府立富田林高等学校

(2) 保護者

「学校は教育方針をわかりやすく伝えている」・・・84.8% (85.7)
 「学校は保護者が授業を参観する機会をよく設けている」87.5% (83.3)

「保護者説明会や学級懇談会の回数は適当である」・・・92.6% (87.9)

「学校は HP・ブログやメールマガジンなどで情報をよく流している」・・・83.3% (87.4)

「学校からの連絡は子どもを通じて把握している」・・・66.6% (69.1)

※「保護者説明会や学級懇談会の回数は適当である」が過去8年間で最高値になるなど、保護者との連携（情報発信）は概ね達成。

II 教員

1 教育活動

「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を意識した授業をしている」・・・65.5% (82.0)

「ICT 機器を使った授業を行ったことがある」・・・90.9% (82.0)

「教員の間で、授業方法等を検討する機会が多い」・・・83.6% (85.2)

※教員の授業改善に対する意識は昨年同様かなり高いが、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりについてはまだ意識が足りないのが課題である。

2 学校経営

「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」・・・98.2% (98.4)

「学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている」92.7% (93.4)

※校長の指導力は十分に発揮されている。

あり、教員の意見をボトムアップする機会が足りなかった。今後はそれぞれの取組みを深化させていきたい。

・学力向上から

「教員間で授業方法等について検討する機会が多い」は現状維持 (85.2%→83.6%)。

「ICT 機器を使った授業を行ったことがある」は初めて9割を超えた (90.9%)。

「主体的・対話的で深い学び」を意識して授業」は大幅アップ。(82.0%→65.5%)。

※授業観察等を通して、多くの教員がアクティブ・ラーニングを取り入れていると思われ、実態と教員の意識との乖離があるのではない。

・学校教育目標から

「グローバルな視野とコミュニケーション力が身に付いた」は90.9%。

「探究活動により、深く考え、情報を収集し、発表する力が身に付いた」は58.2%。

※探究活動の経験がない教員が多く、指導力に対する自信がないのではないかと懸念される。

・生徒指導・教育相談

「いじめが起こった際の体制、迅速な対応」は生徒・保護者より教員が高い数値。

「教育相談体制が充実。生徒は担任以外の教員とも相談できる」は94.5%。

・富田林高校での勤務満足度

「富田林高校での勤務は充実している」は昨年度比-8.5% (80%)。

※本校は今年度、大変革期にあり、各教員の業務量が相当増えてしまっている。

【委員からの意見等】

・総体として向上しているが、個別の課題をしっかりと検討すべきである。

・「探究活動により、深く考え、情報を収集し、発表する力が身についた」に対する生徒の評価があまり高くないのが気になる。

・力が身に付いているかを生徒が自分で判断できる指標が必要。

・探究活動は楽しいと子どもは言っている。しかし、適切な評価がされないと、生徒の気持ちを萎えさせるのではないかと。

・学力に関する項目は概して数値は高い。しかし「学校だけで進路達成に必要な学力が身に付く」は学年が上がるにつれて数値が低くなっているのが気にかかる。塾に頼らざるを得ないのか。

・一方で、保護者の「学校の進路指導への取組満足度」は80%以上。教員も「体系的な進路指導が行われている」と思っている (94.5%)。先生の思い、子どもの現実、保護者の意識に違いがあるのかもしれない。

・「困っていることや悩みを相談できる先生がいる」が少し低い。

・教員の「各部署の連携が円滑で有機的に機能している」が低い (58.2%)。これは単に忙しいだけが理由ではないと思うが、どう改善をしていくのか。

・「会議は課題検討の場として有効に機能している」の数値も低い (54.5%)。組織について課題があるのではないかと。

・自分の意見が学校運営に反映されないとメンタル面の健康を害する場合がある。

・教員のアンケートの回収率100%が8年間で1度もないのが少し気にかかる。

(2) 学校経営計画及び学校評価

【確かな学力の育成】

・教員経験年数が少ない教員中心に授業改革推進チームを組織し、授業見学のルーティン化、中高合同の研究授業・研究協議（2回）を行った。

・授業アンケートの数値は年々徐々に上がっている。

【高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み】

・SSH となり、「総合的な学習の時間」では地域と連携した探究貢献活動や海外との交流を充実させることで、国際社会で活躍できる力、社会への貢献意識、及び自己実現意識を育成している。

・年度末の地域フォーラムでは、地域の方々と共にこの1年の成果を発表する予定である。

【豊かな感性をはぐくむ取組み】

・国際教育の推進では、今年度も台湾からの訪問団を2回受け入れた。

・台湾への修学旅行では、英語で現地の高校生と交流し、探究活動を発表した。

・グローバルリーダー育成海外研修の満足度は100%であった。

【委員からの意見等】

・毎年 PCDA サイクルを回して、改善点を導き出している。

・新しい取組みを行う時には必ず摩擦もあるので、その都度、修正が必要である。

・今まさに求められている高校改革の具体的な姿を見せてもらった。

・他の学校を引っ張っていくリーディングスクールとして今後も頑張ってもらいたい。

- | | |
|--|--|
| | <p>(3) 校則について</p> <ul style="list-style-type: none">・本校の校則を提示 <p>【委員からの意見等】</p> <ul style="list-style-type: none">・昔は金髪などすごく派手な生徒もいたが、最近はどうか。
←派手な生徒は少ない。頭髪に関して常識的な指導をしている。(事務局)・(一般論として) 頭髪指導はしないとイケないのか。 <p>4 報告その2 中高一貫教育校開校後の状況【中学校長】</p> <p>【前回(11月)の報告以降の取組みについて】</p> <ul style="list-style-type: none">・12月末にグローバルリーダー育成海外研修でマレーシアを訪問し、他民族、多文化、高度経済成長について学び、グローバルリーダーとなるヒントを得た。・総合学習の取組みとして、南河内探究を行った。・2期生の入学者適性検査を実施し、南河内に限らず広い地域から志願者が集まった。 <p>【委員からの意見等】</p> <ul style="list-style-type: none">・手ごたえと課題についてはどうか。
←学力面で高い生徒が入学してきている。・授業以外のゆとりを与えることで学力もさらに向上するのではないか。
←高校との接続も今後検討していかなければならない。・中学校の生徒、保護者、教員の満足度はどうか。
←生徒・保護者ともに9割以上である。教員の満足度も高いが、多忙である。 |
|--|--|

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 各教科において中高一貫して学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組む。</p> <p>ア 45分×7限授業（高校全学年33単位）により、確かな学力の育成に取り組む。</p> <p>イ アクティブ・ラーニング研究チームを核として、アクティブ・ラーニングの視点による授業改善に全教員で組織的に取り組む。</p> <p>ウ 6年一貫のCan-doリストに基づく英語の運用能力を推進する。</p> <p>エ 家庭学習ノートの一層の活用を図るなど、家庭での学習習慣の確立のための工夫をする。</p>	<p>ア 45分×7限授業（高校全学年33単位）により、学校生活をデザインする。</p> <p>イ 年度当初に教科ごとに「アクティブ・ラーニング」の取組みを検討し、各教員がアクティブ・ラーニングの授業デザインをもてるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 年に2回の研究授業を実施するとともに、教科別に1週間の公開授業週間を設定し、他教科からも授業参観がしやすい環境をつくる。また、授業観察シートを活用して教科の専門性を超えた授業研究をおこなう。 生徒による「授業アンケート」を5月、11月に実施し、全教科による授業改善シートを作成する。 ICT環境の一層の充実を図るとともに、全教科でICT機器を活用した研究授業を実施し、成果検証を行う。 <p>ウ 英語のすべての科目でICT機器を活用した4技能統合型の授業を展開し、実践的な英語運用能力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生では毎朝10分間の「英会話タイムトライアル」を実施し、スピーキング能力の向上を図るとともに、毎日実施できるよう教室の環境を整備する。 高校1・2年生全員に英語能力試験（外部試験）を実施する。 <p>エ 家庭学習記録ノートを作成することで、家庭での学習時間を増やす。</p>	<p>ア (生徒向け) 学校教育自己診断における授業満足度(平成28年度63%)70%をめざす。</p> <p>イ (教員向け) 学校教育自己診断「アクティブ・ラーニングを意識して授業をしている。」(平成28年度83%)85%以上をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科別に1週間の公開授業週間を設定できたか。また、年に2回の研究授業を実施するなど校内全体で授業研究を実践できたか。 2回の「授業アンケート」を実施し、全教科による授業改善シートが作成され改善がすすんだか。 ICT機器を活用した授業ができたか。 (教員向け) 学校教育自己診断「ICT活用授業を行ったことがあるか」(平成28年度82%)85%以上をめざす。 <p>ウ 1・2学年全員が英語能力試験(GTEC)を受験し、その技能別結果を「見える化システム」に入れ、全生徒が活用できたか。</p> <p>エ (生徒向け) 学校教育自己診断「家庭学習を平均して1日90分以上している」3学年平均(平成28年度70%)80%をめざす。</p>	<p>(1)</p> <p>ア (生徒向け) 学校教育自己診断における授業満足度は67%に上昇するも目標に及ばず。(△)</p> <p>イ (教員向け) 学校教育自己診断の項目内容を「アクティブ・ラーニング」から「主体的対話的で深い学び」に変更。結果66%に下降。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科横断型「授業改革推進チーム」を発足。公開授業のルーティン化、年間2回の研究授業(中学校「道徳」、高校「数学A」、及び授業公開週間を設定。校内全体での授業研究は進んだ。(○) 2回の「授業アンケート」を実施し、全教員で結果を分析。それを踏まえて授業改善シートを作成。自身の授業改善に活用した。(○) (教員向け) 学校教育自己診断「ICT活用授業を行ったことがあるか」は91%に上昇。目標を上回る。教員の大部分はICT機器を活用することを前提に授業を行っている。(◎) <p>ウ 1・2学年全員が英語能力試験(GTEC)を受験し、その技能別結果を「見える化システム」に入れ、全生徒が活用できた。来年度よりタブレット活用によるスピーキングも導入し、大学入試共通テストに備える予定である。(○)</p> <p>エ (生徒向け) 学校教育自己診断「家庭学習を平均して1日90分以上している」3学年平均が78%に上昇するも、目標に及ばず。(△)</p>

府立富田林高等学校

<p>2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取り組み</p>	<p>(1) SSHとなり、中高一貫して「探究」と「貢献」をキーワードに教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成する教育を推進するとともに、高校では6年一貫教育の結果としての進学実績の向上を図る。</p> <p>ア SSHとなり、「総合的な学習の時間」では、「地域と連携した探究貢献活動」を実施するとともに海外との交流を拡充することで、国際社会で活躍できる力、社会への貢献意識、及び自己実現意識を育成する。</p> <p>イ・中高一貫した進路指導実現のためのシステムを構築する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現役での国公立大学進学者の合格者数（平成27年度現役合格者数61名。3年生5.9人に1人が合格）を3年後に5.0人に1人の合格をめざす。 	<p>ア・本校のSSH（開発型）の目標（課題解決に向けた科学的探究力及びその探究力の基礎となる思考力・判断力・表現力を育成するプログラムの開発）を具現化するプログラムを開発する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSHとして、「総合的な学習の時間」において、行政や大学等との連携を基礎に、ゼミ形式で探究活動を進め、学年末には学年での発表や地域フォーラムを開催する。 <p>イ・2年生、3年生は基礎基本的な知識の定着を図るため、毎朝10分間小テスト（英・数・国）を実施するとともに、実施に向けて教室の環境を整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校独自の中高一貫した「学習見える化システム」を作成し、全生徒が活用し、将来の目標を早期に発見させる。 ・生徒・保護者に適切な進学説明会を継続して実施する。 ・進学講習を充実する。 	<p>ア・SSHとして本校の到達目標を具現化するプログラムを開発できたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域を巻き込んだ地域フォーラムが開催できたか。 <p>イ・生徒の「見える化システム」の利用率100%をめざす。</p> <p>（生徒向け）学校教育自己診断における進路指導の満足度（平成28年度77%）80%以上を維持する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（保護者向け）学校教自己診断における進路指導の満足度（平成28年度77%）80%以上をめざす。 ・2学年後半から計画的に進学講習が実施できたか。（週1回、国・数・英） 	<p>ア・今年度SSHに指定され、担当分掌である中高一貫創生部が中心となり、科学的探究力及びその探究力の基礎となる思考力・判断力・表現力を育成するプログラム開発と実践を行った。科学関連研究機関等での研修プログラムには中学生も参加するなど6年間を見越したプログラムを開発している。（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月3日に地域フォーラムを開催予定。（○） <p>イ・1～3学年全員が「見える化システム」を利用した。（○）</p> <p>（生徒向け）学校教育自己診断「学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」は82%で目標を達成。（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（保護者向け）学校教自己診断における進路指導の満足度は79%で目標をほぼ達成（○） ・2学年後半から国・数・英において計画的に進学講習を実施している。（○）
--------------------------------	---	--	--	---

府立富田林高等学校

<p>3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み</p>	<p>(1) 充実した学校生活こそが、「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事・部活動等の一層の充実を図る。</p> <p>ア 学校教育目標で設定した<育みたい力>の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励する</p> <p>イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。</p> <p>ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。</p> <p>(2) 異文化交流による国際教育を中高一貫して推進する。</p> <p>ア・国際交流（台湾、オーストラリア、ドイツ、タイ）の充実を図る。</p> <p>イ・海外での交流校の発掘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾やオーストラリアの姉妹校との交流の継続 ・グローバル人材の育成に向けた海外研修の実施 	<p>(1)</p> <p>ア・中高合同の学校行事の効果的な実施と成果を検証する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 文化祭・体育祭における準備委員会を一層活性化させる。 ② 修学旅行や遠足等校外学習を3年間見通した計画を立てることで、内容の充実を図る。 ③ 部活動への参加を奨励する。 <p>イ・これまでの人権研修の実施計画を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、遅刻指導の充実と生活マナーを向上させる。 ・式（入学、卒業、始業・終業など）での標準着用用の指導。 <p>ウ 中高一貫した「いじめ基本方針」に基づき、いじめを許さない仲間づくりを計画的に実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・台湾及びオーストラリア姉妹校との交流を充実させる。</p> <p>イ・中高一貫校としての修学旅行（中学校・高校）の内容と行先を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外交流校の情報を収集し発掘する。 ・アントレプレナーシップ型の課題発見・解決能力及び英語によるプレゼンテーション能力を高める海外研修を実施する。 	<p>(1)</p> <p>ア・(生徒向け) 学校教育自己診断結果における行事満足度（平成28年度92%）90%以上を維持。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率（平成28年度90%）90%以上を維持 <p>イ 時代のニーズに合致した人権研修の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(生徒向け) 学校教育自己診断結果における人権教育満足度（平成28年度90%）90%以上をめざす。 ・(生徒向け) 学校教育自己診断結果における校則遵守率（平成28年度95%）90%以上を維持。 <p>ウ (生徒向け) 学校教育自己診断結果におけるいじめのない学校づくりに対する満足度率90%をめざす。</p> <p>(2)</p> <p>ア 多くの生徒が海外の高校生と交流できたか。</p> <p>イ・2年後の海外修学旅行先や姉妹校提携先の情報を収集できたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外研修の参加者への研修後のアンケートで、「課題を発見し解決する能力が身に付いた」「英語によるプレゼンテーション能力が向上した」の項目について、それぞれ肯定的な回答が90%以上をめざす。 <p>(生徒向け) 学校教育自己診断結果で国際交流満足度（平成28年度92%）90%以上を維持</p>	<p>(1)</p> <p>ア・(生徒向け) 学校教育自己診断結果における行事満足度93%で目標を達成。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率は86%で目標を達成できなかった。(△) <p>イ・(生徒向け) 学校教育自己診断結果における人権教育満足度86%で目標を達成できなかった。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(生徒向け) 学校教育自己診断結果における校則遵守率96%で目標を達成。(○) <p>ウ・(生徒向け) 学校教育自己診断結果におけるいじめのない学校づくりに対する満足度84%で目標を達成できなかった。(△)</p> <p>(2)</p> <p>ア 今年度も台湾（2校）やタイからの生徒と中高合同で交流することができた。(○)</p> <p>イ・2年後の修学旅行先をマレーシアを中心に情報を集めている。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アントレプレナーシップの海外研修参加者に対するアンケート結果はすべての項目で100%の満足度であり、目標を大きく上回った。(◎) ・今年度の生徒向け学校教育自己診断では、単に国際交流の満足度ではなく、交流を通してグローバルな視野とコミュニケーション力が身に付いたかを問うた。結果は肯定的回答が86%(○)
---	---	--	---	--

府立富田林高等学校

<p>4 中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携</p>	<p>(1) 中高一貫校として再編した分掌組織を機能させ、6年一貫した教育活動の充実を図る。 ア 中高一貫の観点でそれぞれ校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、その中で人材育成を図る。 イ 全国的な教育課程研究会への参加や、全国の教育先進校の視察を行い、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。 ウ 中高一貫校として相応しい学校Webページに一新するとともに、校長ブログ等による情報の発信を強化する。</p> <p>(2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。 ア コミュニティースクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりを推進する。 イ 安全・安心な学校づくりに努める。 ウ 地域貢献を推進する。</p>	<p>(1) ア・中学、高校それぞれの対応する分掌が協働できる会議システムを構築する。 ・中高一貫教育の観点で新しく再編した分掌(中高一貫創生部)を機能させる中で、人材育成を図る。 イ 全国の先進中高一貫校の視察と情報収集を通してカリキュラムや組織体制を充実させる。 ウ 中高一貫校として相応しいWebページにリニューアルし、効果的な情報発信をする。</p> <p>(2) ア・学校運営協議会の設置(平成30年度)に向けて準備委員会を設置し、組織体制及び取り組み内容等について検討を行う。 ・「めざす学校像」の共有化を図るとともにコミュニティ・スクールについて情報収集及び研修を行う。(準備委員会、教職員) イ・中高一貫した防災教育計画に基づき防災訓練等を実施するとともに、安全安心のための学校環境の整備を行う。 ・教育相談委員会による情報を収集し共有する。 ウ・地域からの要請に応えるだけでなく、地域に出かける活動を取り入れる。 ・地域住民を巻き込んだ総合学習の成果発表会である地域フォーラムの開催 ・地域貢献活動の実施</p>	<p>(1) ア・中高それぞれの対応する分掌が協働的に機能することができたか。 ・継続的な人材育成が「創生部」の取り組みとしてできたか。 イ 中高一貫校の先進校情報を収集し、学校づくりに活かされたか。 ウ 学校webページを中高一貫校としてふさわしいものに一新し、効果的な情報発信ができたか。 (保護者向け)学校教育自己診断における情報発信の満足度(平成28年度88%)90%をめざす。</p> <p>(2) ア・学校運営協議会に向けて準備委員会を設置し、取り組み内容について検討を行ったか。 ・(生徒向け)学校教育自己診断における学校満足度(平成28年度88%)90%以上をめざす。 (保護者向け)学校教育自己診断における学校満足度(平成28年度95%)90%以上を維持する。【高等学校】 イ (生徒向け)学校教育自己診断結果における悩み相談の満足度(平成28年度57%)60%以上をめざす。 ウ・生徒会が中心となり幼稚園・小学校・中学校等と連携した活動ができたか。 ・総合学習の成果発表会である地域フォーラムを開催できたか。 ・河川清掃などの地域でのボランティア活動を継続できたか。</p>	<p>(1) ア・中学、高校それぞれの対応する分掌を組織し、適宜合同会議を実施した。(○) ・英語教育や海外研修、及び授業改革推進チームの担当者を創生部に配置し、事業運営を遂行させた。(◎) イ 中高一貫校の先進校情報を収集し、職員会議や研修時にフィードバックするなど、今後の学校運営に資する活用をした。(○) ウ 1月末に学校ウェブページを中高一貫校用に全面改訂した。(○) (保護者向け)学校教育自己診断における情報発信の満足度は83%で目標に達成しなかった。(△)</p> <p>(2) ア・コミュニティースクールの設立に向けた学校運営協議会を開催し、今後の中高一貫校としての方向性を議論した。 ・(生徒向け)学校教育自己診断における学校満足度91%で目標を達成。(○) (保護者向け)学校教育自己診断における学校満足度96%で目標を達成。(○) イ (生徒向け)学校教育自己診断結果における悩み相談の満足度58%で昨年と横ばいで目標に達することができなかった。(△) ウ・生徒会が中心となり幼稚園との交流や小学校との挨拶運動等、他校種との連携した活動ができた。(○) ・総合学習の成果発表会である地域フォーラムを3月3日に本校にて実施。昨年度より一層充実した内容となり、地域の方々からも高い評価を得た。(◎) ・年度末にPTAとの連携による河川清掃のボランティア活動を実施予定。(○)</p>
---	--	---	---	--